

令和4年度 事業評価シート

基本情報		所属名	総合教育センター
事業名称	教育フェスティバル費		
実施根拠 (条例・規則・要綱等)	船橋市教育振興基本計画の基本方針3「学ぶ意欲を育て確かな学力の向上を図ります」における推進目標1「学習指導の改善による学力の向上」施策3「主体的な学習活動の奨励」		
事業開始年月日	平成3年度	最終制度改正年月日	
事業目的 (実現・達成したいこと)	児童生徒の主体的な学習活動を発表する場を提供することにより、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。		
事業概要 (誰に、何を、どうするのか)	市内の児童生徒を対象とした「社会科作品展」や「科学論文・工夫作品展」などを開催し、児童生徒の学習成果を披露させる。また、両作品展における優れた研究・作品及び別に開催される「算数・数学チャレンジふなばし」での成績優秀者等を表彰する。		
実施背景 (事業を実施することになった背景・要因)	将来の予測が困難な複雑で不確実な状況の時代においても、既習の基礎的・基本的な知識や技能を活用し、主体的に学習に臨み、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力などを育成する必要があるため。		
これまでの経緯 (対象者・要件・限度額、サービス内容などの制度の変遷)	市内の小・中学全校より作品等を募集している。教育フェスティバル当日の来館者の制限はなし。ただし、コロナ禍においては、来館者数を制限した。		
事業内容	対象者	内容(要件・単価・限度額・サービス内容など)	
	市内小・中学生		

事業実績

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 (単位:千円)	当初予算額	865	868	1,034	1,055
	うち一般財源	865	868	1,034	1,055
	決算(見込)額	862	667	711	-
対象者数・ 交付件数など	来館者数	4,169	中止	956	3,130

交付税、国・県補助の有無

	有無	(ありの場合)名称・内容
交付税措置	なし	
国・県補助	なし	
(国・県補助への) 上乗せ・横出し	なし	

業務量

繁忙期	9月～10月				
業務頻度 (年1回・月1回など)	年1回(毎年10月下旬)				
人工		常勤職員	会計年度任用職員	再任用(フル)	再任用(短)
	人工	下記に記載のとおり			人工
	従事者数				人

※ 職員1人の労働力=1人工。当該事業の人工を記載。複数人が携わっている場合は、それぞれの人工を合計。

【記載例】従事者数:2人、労働力の割合がそれぞれ3割の場合 ⇒ 合計0.6人工(0.3人工+0.3人工)

【別記】「業務量」について

1. 作品展に関する業務(4名)

- ・理科、社会の作品展開催の案内
- ・理科、社会の作品の回収、保管
- ・作品の点検、審査
- ・作品集の発刊

2. 「算数数学チャレンジふなばし(以下コンクール)」に関する業務

- ・コンクールの案内(4名+実行委員10名)
- ・コンクールで使う問題作成(教員による実行委員会を組織)
- ・コンクールでの審査
- ・会場設営

3. 教育フェスティバルに関する業務

- ・作品展、コンクールでの表彰準備(氏名確認、賞状)
- ・表彰式会場設営と後片付け
- ・作品の展示
- ・駐車場の管理、案内
- ・施設の安全管理(コロナ対策含む)
- ・本センターの常勤職員全員(26名)会計年度任用職員(数名)でフェスティバル当日(2日間)の運営を行っている。

評価結果

所属名	総合教育センター
事業名称	教育フェスティバル費

(1) 一次評価（自主点検）で明らかとなった課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目		課題	今後の方向性
1	作品の有効活用	生徒が作成した作品を、作品集として取りまとめて、学校等に配付しているが、有効活用がされていない。	生徒が作成した作品をインターネットで配信し、広く周知することを検討している。
2	作品集の必要性	—	—
3	有効性	—	—
4	事務負担	—	—

(2) 追加で整理した課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目		課題	今後の方向性
1	作品の有効活用	—	—
2	作品集の必要性	・近隣市7市中6市は、作品集を作成していない。 ・小学校の作品を取りまとめた作品集にもかかわらず、漢字で記載されており、作品集の配付対象などが明確でない。	紙の作品集については、その必要性、また、他の媒体での配付についても検討を行う。
3	有効性	紙で作成した作品集は、基本的に学校に保管され、活用されていない。	作品集について、その必要性や冊子以外の媒体での配付検討を行う。
4	事務負担	作品集の作成にあたり、各作品の概要を作成する業務における事務が負担となっている。	作品集について、その必要性や冊子以外の媒体での配付検討を行う。

取組状況

※令和4年度評価結果に対する各年度の取組状況を記載しています

所属名		総合教育センター		
事業名称		教育フェスティバル費		
項目	状況	令和5年度状況	令和6年度状況	令和7年度状況
1	作品の有効活用	完了 作品集の配布について、審査員用と学校配付用は、教職員向けポータルサイトに掲載し、出展者には出展記念として作品集を配付することとなったため、作成部数を減らすことができ、経費を削減することができた。 特別賞受賞作品の周知方法については、教育フェスティバルや社会科作品特別展の開催を「広報ふなばし」や市内X（旧Twitter）やホームページ等で、開催の周知機会を多く生み出すことで、優れた作品を実際に見ていただく人数を増やすよう取り組んだ。	-	-
2	作品集の必要性	継続 学校職員や昨年度の審査員より意見を集約し、所内で検討した結果、学校代表である出展者には記念として冊子を配付することとした。 しかしながら、出展者への作品集配付については、引き続き見直しや検討が必要である。	-	-
3	有効性	完了 学校代表である出展者用に、作品集を作成し送付した。審査員用と学校保管用については、教職員向けポータルサイトにアップロードし配布方法を改めた。	-	-
4	事務負担	完了 冊子の作成部数を減らすことだけでなく、冊子の内容自体を見直し、作成する紙面を減らすことで、作成する側の学校にとっても、校正・編集する側にとっても大きな業務改善となった。	-	-